

キャリア教育の 手引き

~For Our Students' Future~

府中市立府中明郷学園

キャリア教育実践の手引き

(目次)

第1章 キャリア教育とは

- 1 キャリア教育とは何か・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 2 基礎的・汎用的能力とは何か・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

第2章 キャリア教育推進のために

- 1 PDCA サイクル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- 2 キャリア教育を推進していくための組織体制・・・・・・・・ 7
- 3 カリキュラム・マネジメント・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 4 系統的に育成を目指す資質・能力・・・・・・・・・・・・ 10
- 5 育成を目指す資質・能力の評価・・・・・・・・・・・・ 12
- 6 地域・保護者との連携 ～コラム①～ ・・・・・・・・ 13

第3章 社会に開かれた教育課程の推進

- 1 出前授業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
- 2 キャリア体験学習（職場体験学習）・・・・・・・・・・・・ 19
- 3 外部人材を活用した面接体験・・・・・・・・・・・・・・ 21
- 4 学校独自の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
 - (1) スタートカリキュラム・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
 - (2) 地域協創カリキュラム・・・・・・・・・・・・・・ 28
 - (3) 模擬会社経営活動 ～コラム②～ ・・・・・・・・ 37

第1章

キャリア教育とは



第1章 キャリア教育とは

1 キャリア教育とは何か

児童生徒が人と関わり合いながら生きていくための教育

「キャリア」=career は、「仕事」「職業」という日本語訳があるために、教育における「キャリア」も「仕事」や「就職」に関わる「進路指導」をイメージする場合が多かったと考える。特に、「進路指導」においては、「高校受験」をイメージし、高等学校への進学という考えになっていたのではないかと推察できる。

「キャリア教育」という文言が初めて登場したのは、平成11年の中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」で、この答申には「学校教育と職業生活の接続」の改善を図るために、小学校段階から発達の段階に応じてキャリア教育を実施する必要があると提言していると令和4年3月「小学校キャリア教育の手引き」に記されている。

平成23年には、中央教育審議会が「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(以下、キャリア答申)をとりまとめた。この答申において「キャリア教育」を「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義し、「一定期間の限られた、『進学』『進路』についてだけ指導することがキャリア教育ではなく、子どもたちの生涯に目を向けた教育なのである」としている。また、「キャリア」について次のように記している。

人は、他者や社会とのかかわりの中で、職業人、家庭人、地域社会の一員等、様々な役割を担いながら生きている。これらの役割は、生涯という時間的な流れの中で変化しつつ積み重なり、つながっていくものである。また、このような役割の中には、所属する集団や組織から与えられたものや日常生活の中で特に意識せず習慣的に行っているものもあるが、人はこれらを含めた様々な役割の関係や価値を自ら判断し、取捨選択や創造を重ねながら取り組んでいる。人は、このような自分の役割を果たして活動すること、つまり「働くこと」を通して、人や社会に関わることになり、その関わり方の違いが「自分らしい生き方」となっていくものである。このように、人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ねが、「キャリア」の意味するところである。このキャリアは、ある年齢に達すると自然に獲得されるものではなく、子ども・若者の発達の段階や発達課題の達成と深く関わりながら段階を追って発達していくものである。また、その発達を促すには、外部からの組織的・体系的な働きかけが不可欠であり、学校教育では、社会人・職業人として自立していくために必要な基盤となる能力や態度を育成することを通じて、一人一人の発達を促していくことが必要である。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

2 「基礎的・汎用的能力」とは何か

児童生徒が生きていくうえで生涯にわたって必要とされる「基礎的・汎用的な能力」は、先に述べた「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)に、4つの能力として整理されている。

- 基礎的・汎用的能力の具体的内容については、「仕事に就くこと」に焦点を当て、実際の行動として表れるという観点から、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」の4つの能力に整理した。
- この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にある。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力をすべての者が同じ程度あるいは均一的に身に付けることを求めるものではない。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

その上で、それぞれの能力の具体的な内容を次のように整理している。

(ア) 人間関係形成・社会形成能力

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力である。具体的な要素としては、例えば、他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等が挙げられる。

(イ) 自己理解・自己管理能力

「自己理解・自己管理能力」は、自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力である。具体的な要素としては、例えば、自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等が挙げられる。

(ウ) 課題対応能力

「課題対応能力」は、仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力である。この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものである。また、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力である。さらに、社会の情報化に伴い、情報及び情報手段を主体的に選択し活用する力を身に付けることも重要である。具体的な要素としては、情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等が挙げられる。

(エ) キャリアプランニング能力

「キャリアプランニング能力」は、「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である。具体的な要素としては、例えば、学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等が挙げられる。

※中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月)

第2章 キャリア教育推進のために

1 PDCA サイクル

各学校が、学校教育目標の達成や児童生徒に身に付けさせたい力の育成のために、各々の学校の児童生徒の実態や学校・地域の実情を踏まえて、「PDCA サイクル」を回し取り組むことが最も重要である。Plan=計画し、Do=実行、Check=評価、Action=改善を繰り返し学校が取り組んでいくことで、児童生徒に効果的に基礎的・汎用的な能力を育むことができる。

PDCA サイクルのイメージ図



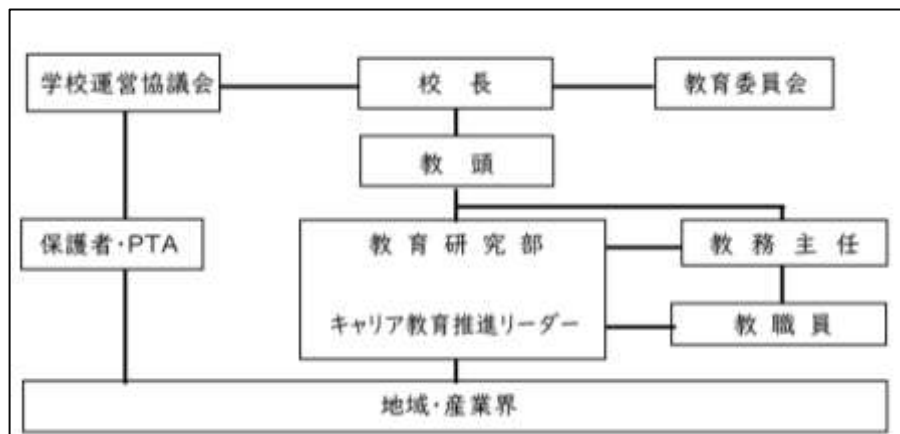
2 キャリア教育を推進していくための組織体制

キャリア教育は、児童生徒が学校で行う全ての学習や活動において行われるものであるため、学校全体、全ての教職員で教育課程を編成・共有しながら推進していかなければならない。それには、まず、校長が示す学校経営方針や児童生徒の実態から目指す資質・能力を設定し、教職員が同じ方向を向いて進んでいけるようにする。

また、キャリア教育は校内だけでなされるべきものではない。保護者や地域、企業、施設、団体などからの協力や理解が不可欠で、社会に開かれた教育課程の推進が必要である。教職員は、それらの方々と協働的にキャリア教育を進めるための指導計画を作成し、学習活動のねらいや目的を共有していかなければならない。

上記のことをふまえて、校内外の実施体制を整備していく。以下は一つの例であるが、整備しておくことで効果的なキャリア教育の推進につながる。

学校内外の実施体制（例）



このように、学校は校内の連携だけでなく校外の地域・産業界とも連携を図りながら児童生徒の資質・能力を育成していくことが重要であるため、校内では、年度初めにキャリア教育について基礎研修を実施しておく。教職員は異動があるので、毎年基礎研修を実施し共通認識をもって取り組んでいかなければならない。キャリア教育の推進リーダーを中心に研修を進め、教育活動は各担任や学年団がそれぞれ地域・産業界との連携を図っていくようにする。それぞれの連携については、連携シート等（第2章-5参照）に記入し、次年度につなげることができるようにしていく。

3 カリキュラム・マネジメント

キャリア教育を推進し、目指す資質・能力を確実に身に付けさせるためには、教育計画、カリキュラム・マネジメントが必要である。全体計画を立てることで、全ての教職員が共通の理解のもと見通しをもち、体系的に推進していくことができる。

(1) 全体計画

全体計画には次のような内容を記載する。

- ① 学校目標 ② キャリア教育目標
- ③ 目指す資質・能力 ④ 各教科・領域の学習内容との関連

学校教育目標等から、キャリア教育の目標を明確にし、各学年の教科・領域等で目指す資質・能力の育成とともに、その目標を達成していくことができるよう記していく。

キャリア教育の全体計画《例》

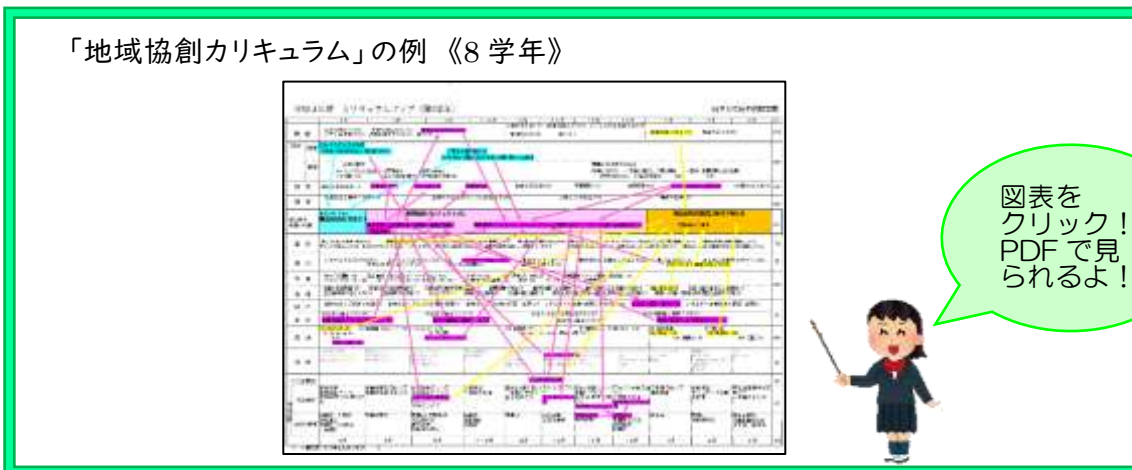
図表をクリック！
PDFで見られるよ！



(2) カリキュラムマップ

次に、目指す資質・能力の育成を図るために、「資質・能力のカリキュラムマップ」(3の(3)参照)を作成するとよい。これにより各教科や領域、また学校行事における資質・能力の育成を計画的に進めることができる。

このカリキュラムマップの作成にあたって、本校では、生活科および総合的な学習の時間での「地域協創カリキュラム」(第3章で説明)に取り組んでいるので、各学年のシラバスを基にして、各教科や領域、学校行事等との学びのつながりを可視化した。



このカリキュラムマップによって、教職員は学習内容と目指す資質・能力の関連を意識して指導することができる。また、これを児童生徒にも提示して共有することで、児童生徒の学びがつながり、他教科との関連を理解して学習することができる。しかし、課題はこのマップでは「目指す資質・能力」が一目で分からないという点である。そこで、このカリキュラムマップを、より簡潔で分かりやすいものに改善したものが次の資質・能力のカリキュラムマップである。



上記の「資質・能力のカリキュラムマップ」により、その学年の各教科・領域と目指す資質・能力との関連が分かり、学習を計画的に進めることができる。これも児童生徒と共有していくようにするとよい。

(3) 生活科および総合的な学習の時間の系統表

第3章で詳しく述べるが、本校では「地域協創カリキュラム」によって、社会に開かれた教育課程の推進を図りながら、児童生徒の資質・能力を育成している。次の表により、各学年の学習内容が簡潔に分かるとともに、学年ごとの学びが繋がっていることを理解することができる。9年

生のゴールの姿に向かって、各学年で学ぶことは何かを理解し、それを教職員と児童生徒、地域が共有することで学年間のつながりを意識し、学びを深めることができる。

生活科および総合的な学習の時間 系統表

図表をクリック!

4 系統的に育成を目指す資質・能力

児童生徒が将来社会生活や職業生活によりよく対応していくことができるようにするために、学校が育成を目指す資質・能力を明確に把握して、キャリア教育の目標とし、児童生徒、地域社会と共有していかなければならない。

(1)【育成を目指す資質・能力の設定ためのプロセス】

- ① 児童生徒実態について教職員で交流
- ② 児童生徒実態把握のためのアンケート作成・実施
- ③ 学校運営協議会や地域・保護者の方々の思いや願いを聞く
(学校評価アンケートの実施)
- ④ ①～③をふまえて教育研究部で協議
- ⑤ 学校全体に提案・共有

① 児童生徒の実態把握

日々の教科学習や学校行事での行動観察や児童生徒が書き記した振り返り、キャリア・ログおよびキャリア・パスポートでの気付きや意見から実態を把握することができる。それらを普段から教職員間で情報交流をすることに加え、校内研修会や分掌部会で交流し共有する。また、どのような児童生徒の姿を目指したいのかを共有する。その学年の1年間だけを考えるのではなく、ゴールイメージとして小学校であれば小学6年生での姿、中学校であれば中学3年生での姿、義務教育学校であれば9年生の姿というように、どのような児童生徒に育てたいのか、ゴールを明確にイメージしておくようにする。

② 児童生徒実態把握のためのアンケート作成・実施

児童生徒の実際の考えや思いから実態を把握するために、アンケートを作成・実施するとよい。例として、本校では、全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙と広島県が実施していた「基礎・基本」定着状況調査の児童生徒質問紙を参考に「児童生徒アンケート」を作成し、実施している。また、キャリア教育アンケートは、平成22年「小学校キャリア教育の手引き」と平成23年「中学校キャリア教育の手引き」に掲載されているアンケートの質問項目を参考に作成していたものを、さらに4つの基礎的・汎用的能力と照らし合わせて編集し、実施している。

(左下) アンケート① 例 《児童生徒アンケート》
 (右下) アンケート② 例 《キャリア教育アンケート》

③ 学校運営協議会や地域・保護者の方々の思いや願いを聞く(学校評価アンケートの実施)

学校以外の場である、児童生徒が生活する家庭や地域での様子を知ること、児童生徒の実態把握の有効な手段である。学校運営協議会の場で委員の方々に意見を聞いてみたり、地域・保護者の方々を対象に「学校評価アンケート」を実施したりして、実態を把握する。

④ ①～③をふまえて教育研究部で協議

このように、様々な方法で見取った児童生徒の実態から、課題となっている資質・能力は何か教育研究部で協議する。協議は、小学校の教員、中学校の教員の両方が参加して行うようにする。それぞれの児童生徒を知っている教員が発達段階に合わせて協議することが不可欠である。

設定する際、表れた課題の全てを育成していきたいと考えたと、視点が増え過ぎて、児童生徒が目指しづらくなるので、重点的に育成すべき点は何かを熟議し焦点化の方がよい。このように設定した資質・能力であれば、教職員が把握し指導に生かしやすいことはもちろん児童生徒自身が主体的に意識して学ぶ目標となる。それゆえに、育成を目指す資質・能力の文言は児童生徒と一緒に考え分かりやすく覚えやすい簡潔なものである方がよい。また、児童生徒は成長し変化するので、各学年の実態に合わせて資質・能力のレベルや表現も変更する方がよい。

⑤ 学校全体に提案・共有

教育研究部で設定したら、管理職に提案し目指す資質・能力を決定する。その後、校内研修会等で教職員に設定の根拠とともに示し、目指す資質・能力を教職員で共有し実行していく。

【改定前】

【改訂後】

府中明郷学園 目指す 資質・能力

⑧ 生み出す力	⑦ 協力する力	⑥ 自分で考えて行動する力	④ 伝える力		③ 考える力	② いかす力	① 課題を見つけて解決する力
			⑤ 振り返る力		④ 問題を解く力		



府中明郷学園 目指す資質・能力

- ① 他者とうまくやっていく力
～人間関係形成・社会形成能力～
- ② 自己を磨く力
～自己理解・自己管理能力～
- ③ 課題を乗り越える力
～課題対応能力～
- ④ 未来へつなげる力
～キャリアアブランチング能力～

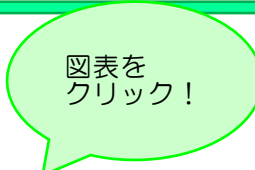
本校では、以前、育成を目指す資質・能力を8つとし、細かく分けられていた。先ほど記載した「児童生徒アンケート」から見えてきた課題を教育研究部が毎年、重点をおいて取り組む資質・能力を決定し研究目標としていた。しかし、目指すものが8つと多く煩雑になったことや、「キャリア教育アンケート」から明らかとなった児童生徒実態から4つ絞り、改善を図った。「児童生徒アンケート」や「キャリア教育アンケート」の結果から見えてきたことは、「情報活用力」や「課題対応力」、「未来を創る力」に関する肯定的評価の低さである。また、教職員で話し合った児童生徒の実態から見えた課題として、自己肯定感の低さや主体的に粘り強く課題に取り組むことが難しいということが明らかになった。これらの課題から育成を目指す資質・能力を、キャリア教育の4つの基礎的・汎用的能力と照らし合わせ見直した。さらに、資質・能力の9年間の系統表を作成し、卒業時の姿を教職員と児童生徒で共有した。その系統表をもとに、年度初めに各学年で児童生徒と話し合い、各学年の育成を目指す資質・能力を自分たちの言葉で表し共有した。

(2)【育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための計画】

この育成を目指す資質・能力を身に付けさせるためには、その資質・能力を図表化し、取組みやすくするするとよい。例えば、前項3(2)に記した「資質・能力のカリキュラムマップ」や下記に記している「育成を目指す資質・能力の9年間の系統表」である。育成を目指す資質・能力をどのように身に付けさせるのが大切なのである。各教科・領域の目指す「知識及び技能」や「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を身に付けさせることは不可欠である。これらが身に付くような指導が最優先であり、無理に全ての教科・領域と単元をキャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力に当てはめる必要はなく、各教科・領域のどの単元で行うとよいか焦点化して指導していく。例えば、中学2年生外国語科において、自分の住んでいる町を紹介するという単元がある。この単元のゴールは「自分の町のおすすめの場所について書き、相手にその場所の特徴やよい点を伝えることができる」である。教科上の評価の観点である「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」に加え、「相手に伝える」というコミュニケーション能力を身に付けさせたいので、伝える相手をオーストラリアの中学生とし「他人とうまくやっていく力」の育成を目指すよう設定する。単元の目標とともに生徒に提示し、生徒自身も単元を通して目標を意識して学習できるように指導することが大切である。

(左下) 育成を目指す資質・能力の9年間の系統表

(右下) 各学年の目指す資質能力一覧表



令和5年度 中学校立派な中級級学園 目指す資質・能力				
学年・教科 (教科の中心)	教科(単元)の中	教科(単元)の中	教科(単元)の中	教科(単元)の中
道徳	道徳心や責任感の醸成や考えを深める	道徳の規範や考えを伝え合う	道徳の規範を正すり合わせ、規範を実践する	道徳の考えから導き出した規範を実践する
国語	課題を導き出して主体的に読解する	課題の読解を考えた読み方をする	課題読解のための読解力を持てる	課題読解・読解のゴールを達成する
英語	自分の得意なところを表現する	自分の得意の点に導いて学ぶとする	自分を肯定的に見ながら学ぶとする	自分の得意や強みを伸ばしながら学ぶとする
総合	自分の得意の点を伸ばす	自分の得意の点に導いて学ぶとする	自分を肯定的に見ながら学ぶとする	自分の得意や強みを伸ばしながら学ぶとする

令和5年度 中学校立派な中級級学園 目指す資質・能力 (学年別)				
学年・教科 (教科の中心)	教科(単元)の中	教科(単元)の中	教科(単元)の中	教科(単元)の中
道徳	道徳心や責任感の醸成や考えを深める	道徳の規範や考えを伝え合う	道徳の規範を正すり合わせ、規範を実践する	道徳の考えから導き出した規範を実践する
国語	課題を導き出して主体的に読解する	課題の読解を考えた読み方をする	課題読解のための読解力を持てる	課題読解・読解のゴールを達成する
英語	自分の得意なところを表現する	自分の得意の点に導いて学ぶとする	自分を肯定的に見ながら学ぶとする	自分の得意や強みを伸ばしながら学ぶとする
総合	自分の得意の点を伸ばす	自分の得意の点に導いて学ぶとする	自分を肯定的に見ながら学ぶとする	自分の得意や強みを伸ばしながら学ぶとする

5 育成を目指す資質・能力の評価

評価には、教職員が行う評価と児童生徒自身が行う評価がある。評価をするためには、育成を目指す資質・能力のルーブリックがあるとよい。1つの資質・能力において、どのような姿がおおむね達成できたという B 評価なのか、B 評価から更にどのようなことができたか A 評価なのか、教職員が共通認識をもっておく必要がある。また、9年間の学びを発達段階に応じて分ける際、どの学年で区切れればよいのかも検討する必要がある。

【改善前の目指す資質・能力】

問題解決力	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)
コミュニケーション力	① 相手や状況に応じて、分かりやすくまとめる能力 (コミュニケーション力) ② 自分の考えや行動を振り返り、これからの自分の取っ手方を考えようとする力 (内省的な思考力)
主体性	自ら考え、行動し、行動しようとする態度
協働性	個性を生かし、多様な視点と協力し課題を解決しようとする態度
計画力	正しい計画を導くために、何をすべきかを考え、新しい目標や行動を創造していく力 (新しいものを創りだしていく力)

【左記のルーブリック表】

学年	1~4年生	5~6年生	7~9年生
資質・能力	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)

1~4年生、5・6年生、7~9年生に分けたが、幅が広く目指しづらかった。

【改善後】目指す資質・能力のルーブリック表

学年	1・2年生	3・4年生	5・6年生	7・8・9年生
資質・能力	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)	① 自ら課題を見だし、解決への知識と意欲を養う力 (課題設定力) ② 必要な情報を収集し分析し、正しい解を見いだす力 (情報処理能力) ③ 問題を策に立案や議論を目指す力 (論理的思考力)

図表をクリック!

1・2年生、3・4年生、5~7年生、8・9年生の4つに分けて作成! 9年生での姿を見据えて学習できる!



児童生徒自身が行う自己評価は、学習後、実際に自分に力が身に付いたかどうかをチェックし、改善点を把握して次の目標をどうするか考えることが重要である。指導者は、その振り返りを確認し、自身の指導法を検討・改善していく。このように確実に「Check」=評価を行い、「Action」=改善をすることが次のステップにつながり、目指す資質・能力の指導につなげていく。

教科・領域の学習以外の学校生活の中でも、キャリア教育における資質・能力を育むことができる。毎日の学級活動や学校行事などにおいても、各自で PDCA サイクルを回していくことが有効である。その一つの方法が、「学びのカード」である。

【「学びのカード」の実施方法】

- ① 毎日、朝の会で、その日一日に育成を目指す資質・能力を決める
- ② 意識して一日を過ごす
- ③ 帰りの会でカードに記入する
- ④ 月末に振り返り、学級で交流する
- ⑤ 個々で作文を書く

以前は、A4サイズ用紙に8つの枠を載せて、それに記入していた。月末には、それらをすべて切り分けて、資質・能力別に分類して別紙に貼ってから、作文を書いていた。しかし、切って貼るという作業に時間がかかったという実態から、ロイロノートに日々記入をすることにした。育成を目指す資質・能力によって付箋の色を変えて記入することで整理しやすくなり、円滑に振り返りをすることができている。また、それまで個々で行っていた月末の振り返りを、各学級で交流し、次の目標を共有することにした。互いに交流することで、視点を変えた考えを得ることができ、個人だけでなく学級全体でもより高いレベルの資質・能力を身に付けることができる。また、ここでまとめた内容を振り返り、学期末ごとに書くキャリア・ログにも利用している。

【「学びのカード」の例】



【学級での交流の様子】



【1学期終了時のキャリア・ログ】



6 地域・保護者との連携

児童生徒が社会で様々な役割を担いながら他者と関わり生きていくためには、学校が地域や産業界と連携・協力して教育活動を行う、いわゆる「社会に開かれた教育課程」を推進することが効果的である。中央教育審議会「今後の学校教育におけるキャリア教育・職業の在り方について(答申)」において、地域や産業界がもつ社会観や職業観を学校で教職員とともに育成することで、児童生徒のキャリア発達を促すことができると記されている。

では、地域・産業界とともにどのように教育を進めていけばよいのか。地域や学校によって、おかれている環境は様々であるので、1つの例として本校で行った取組の手順を示す。

【手順例】

- ① 教育課程や指導内容を確認（指導計画の案を立てる）
- ② 学校運営協議会委員やPTA役員などへの声掛け
- ③ 個人や企業に連絡、授業・活動等の「ねらい」を共有⇒確定後、指導計画の作成
- ④ 打ち合わせ
- ⑤ 実施
- ⑥ フィードバック

【取り組む際の留意点】

手順①において：地域や企業とともに「児童生徒の資質・能力の育成」という視点を共有

各学年の教育課程において地域・産業界の方に関わっていただくことで、その学習を深めたり広げたりする効果があるかどうかをしっかりと見極め、判断することが大前提である。実生活や将来の生活において、どのような資質・能力が活用できるかを、地域・産業界の方々に教えていただくことで、学習に対する意欲が高まると考える。

手順②において：「つながり」を生かす

各学校で実態が異なるので、すでに学校と関わりのある学校運営協議会の委員やPTA役員に相談をし、「このような力を身に付けさせたい。」「このように授業をしたい。」「このような仕事をしている方をご存じないですか。」と尋ねてみることから始めるとよい。教職員が学区・地域の全てを知っているわけではない。一声掛けてみることで、意外と「つながり」や「広がり」が生まれるものである。

手順③において：まずは電話連絡

ご協力いただけそうな個人・企業が分かったら、どの場面で、どのような資質・能力を育みたいのかを伝える。そして、学校が育成したい児童生徒の姿を具体的に伝えて共有し、協働的に授業を進めていく。本校に関わってくださっていた地域の方も、「以前は、学校のために何かしたいという思いがあっても関わり方が分からなかった」とおっしゃられていた。我々教職員が思うよりも、地域の方々は学校を支えたいと思ってくくださっているので、学校側は積極的に協力をお願いしてもよい。ただ、先に述べたように、ただ授業をしてもらっただけでは地域や産業界の方も何をどのように話したり伝えたりすればよいのか戸惑い、負担に感じて次につながる可能性が低くなる。授業の意図を伝え、協働的に進めていくとよい。

手順④において：打ち合わせは、1度は顔を合わせて行う

お願いする側のマナーとして、顔を合わせて話し合うとよい。可能であればこちらから訪問させていただくのがよい。来校いただけるのであれば、今後も来校いただく可能性を考えて、管理職にも話を通して顔合わせをしておく方がよい。（遠方であればオンラインでの打ち合わせでもよい。）打ち合わせでは、授業のねらいおよび指導計画を提示し、具体的な関わり方を明確に伝えることが大切である。地域・産業界の方々は皆さんが教えることに慣れていらっしゃるわけではないので、不安なく関わっていただけるように配慮する必要がある。学校として共通の「出前授業計画シート」や「CS地域人材データベース」といった連携シートを作成しておくこととよい。打ち合わせるべき内容に漏れがないようにしたり、連携の記録を残したりすることで次年度の連携がスムーズになる。



学園だより



キャリア教育通信
TSUNAGARI
~つながり~

各学校・地域に合った方法で児童生徒の様子を伝えるフィードバックを行うことで、児童生徒の家の近所の方も子供たちに声を掛け学びを励ますことができる。児童生徒にとって声をかけていただくことは、よいコミュニケーションとなり、人間関係形成、社会形成能力や、自己肯定感を高めることにつながると考える。地域の方々からも、子供たちと話したり関わったりすることで元気になれると言っていることがある。学校が地域と関わることは、互いにとってプラスなのである。

～コラム①～

キャリア教育は地域の未来への投資

府中明郷学園学校運営協議会会長
模擬会社 LinkS 企業支援チーム
立石 克昭

私はコミュニティ・スクールに関わり 10 年、キャリア教育に関わって 5 年になります。

私は、地域が CS やキャリア教育に対してもつべき大事な視点があると考えています。「どんな子供を目指すのか?どんな資質を身につけさせるか?」このことを学校と方向性を一つにすることだと思っています。

本校では義務教育学校として 1 年生から 9 年生までを一つのまとまりとしてとらえ、地域を知るところから会社見学、職場体験と様々な地域の人たちが関わって育ててもらっています。

その中で、8 年生は模擬会社をカリキュラムとして継続し 5 年目を迎えています。特にこの取組は、学校だけでは難しい授業です。地域企業（現在 8 社が協力）と連携を取ってこそ実現できると考えています。

ただ、注意しなければならないことは前記した目的を教員と共有することだということです。それを前提として商品開発、販売を通して社会性を学び、考える力、自己表現力、コミュニケーション力の大切さを生徒たちは実践で確実に身に付けてきています。その姿に私達もやりがいを感じています。

私は、地域企業としてこの取組を地域への投資だと考えています。なぜなら、子供達は地域企業をほとんど知りません。保護者も学校も同様です。我々、企業も認知してもらおう取組をやってこなかったのも事実です。この取り組みを通して子供たちが地域を知り、地域企業を知り、この地域に魅力を感じ地域を支える子供たちの育成に携われることは、未来への投資だと考えているのです。



第 3 章

社会に開かれた教育課程の推進



第3章 社会に開かれた教育課程の推進

本章では、効果的に児童生徒のキャリア発達を促し、目指す資質・能力を身に付けるための取組の具体を示す。どの取組においても重要なことは、次の3点である。

● 目指す資質・能力を常に意識して指導

⇒「なぜその取組をするのか」

「この学習をとおしてどのような力が身に付くのか」

教職員が目指す資質・能力や取組の意図を児童生徒に伝えることで、より効果を発揮する。

● 目指す資質・能力を共有

⇒教職員だけが児童生徒に目指す資質・能力を身に付けさせようと取り組んでも、児童生徒は、やらされているという感覚にしかない。児童生徒と目指す資質・能力を共有し、児童生徒が意識して主体的に学習に取り組むことが重要である。また、協力していただく地域・産業界、保護者とも共有することで、「協働」しながら児童生徒の資質・能力を育むことにつながる。

● PDCA サイクルで取り組む

⇒P=計画し、D=実施するだけで終わるのではなく、前章で示したような目指す資質・能力をチェックするルーブリック表などでC=評価・振り返りをして表出した課題の改善策を検討し、A=改善に取り組むことが重要である。さらにこのPDCAを繰り返し、次の学習につなげていくことが成長につながる。

1 出前授業

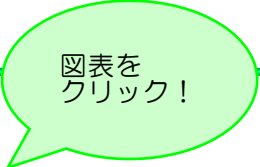
(1) ねらい

各教科・領域の指導内容は学習指導要領の内容にそって行われるものであり、地域・産業界と協働的「出前授業」を展開することで、より効果的に児童生徒の資質・能力を育むことができる。教職員は教育の専門的な知識をもって授業を行うが、より専門的な知識をもつ各分野の専門家から詳細や現状、さらには最新の知識などを児童生徒が学ぶことで、学習が深まる。また、授業をしていただいた方が考える働くことの意味を児童生徒に伝えてもらうことで、児童生徒の将来の職業についての選択肢の一つとなる可能性もある。

目指す資質・能力：未来へつなげる力（キャリアプランニング能力）

このねらいを達成するために、「出前授業計画シート」を作成し、記録をしていくとよい。記録をしていくことで授業のねらいを明確にすることができ、授業をしていただく企業との事前連携にも有効である。また、次年度その学年の担任が連携しやすくなる。

(2) 実施計画及び内容



(左下) 出前授業計画例:《6年生 外国語》

(右下) 出前授業計画例:《8年生 理科》

学年・学期(授業計画)	心算算(24)	理科	英語
単元名	Unit 6 Let's go to Italy!	数値計算	英
単元内容	世界にいろいろな国や地域について学習する単元について、海外の国や地域について、その歴史について、話し合えることができる。		
企業・事業所名	サトーエビ(アトリス) 株式会社		
担当講師名(連絡先)	サトーエビ(アトリス) 株式会社 (電話番号:090-5756-5811) (Eメール: satoebi@satoebi.co.jp)		
出前授業の目的	外国に生かす海外の歴史を、外国について知ることや興味を持って、英語の学習のモチベーションを高め、英語の学習のモチベーションを高める。		
出前授業の時間	令和5年度第1学期 2学期(1)4月11日(月)		
単元目標	① 英語設定) 読者の感情・動機・態度・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ② 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ③ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ④ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑤ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑥ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑦ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑧ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。		
出前授業の準備物	ChromecastとCOMキャスト		
振り返りまとめ	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		
※児童生活科の活用	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		
※キャリア教育	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		
※その他	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		

学年・学期(授業計画)	化学(25)	理科	理科
単元名	物質の粒子のつくりと性質	数値計算	理科
単元内容	物質の粒子のつくりと性質について、その性質について、話し合えることができる。		
企業・事業所名	株式会社サトーエビ		
担当講師名(連絡先)	株式会社サトーエビ (電話番号:090-5756-5811) (Eメール: satoebi@satoebi.co.jp)		
出前授業の目的	物質の粒子のつくりと性質について、その性質について、話し合えることができる。		
出前授業の時間	令和5年度第1学期 2学期(1)4月11日(月)		
単元目標	① 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ② 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ③ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ④ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑤ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑥ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑦ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。 ⑧ 読者の感情・動機・態度の育成を図る。また、読者の感情・動機・態度の育成を図る。		
出前授業の準備物	ChromecastとCOMキャスト		
振り返りまとめ	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		
※児童生活科の活用	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		
※キャリア教育	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		
※その他	本日の学習が「何か」を学んだことについて、感想や気づき、学びをまとめる。		

(3) 取組の成果

出前授業を計画・実施することで、児童生徒は普段の学校生活や各教科・領域での学びと社会との接点を知ることができたり、学習に対して関心を示し意欲的になったりしている。例えば、6年生外国語科 Unit 6 ”Let’s go to Italy!”という単元で、英会話学校社長に出前授業をしていただき、ご自身の海外生活や体験を教えてくださいました。児童たちは、「英語をしっかりと練習しておこう。」や「いつか実際に海外へ行ってみたい。」という振り返りをするなど、学んだことから日々の学習や将来について考えるようになった。また、キャリア教育に関するアンケートにおいて、「社会の様々な仕事について知り、よりよい自分の未来・将来について、興味・関心を持つようになっていますか。」という設問に対して、肯定的評価は毎年度伸びて80%以上である。

2 キャリア体験学習(職場体験学習)

(1) ねらい

目指す資質・能力: ① 課題を乗り越える力(課題対応能力)
 ② 未来へつなげる力(キャリアプランニング能力)

6年生における「地域活性化プロジェクト」の「企業訪問」で学習したことを振り返りながら、この「職場体験プロジェクト(キャリア体験学習)」を実施している。そして、この学習を通して学んだことを生かして、8年生の「地域協創プロジェクト」につなげている。(各学年のカリキュラムについては第3章の4(2)を参照)。府中市全体としては、「『キャリア体験学習』～企業・しごとを知り、創造力を働かせる～」として6つのねらいを掲げている。このキャリア体験学習で、本校が目指す資質・能力は2つに焦点化し、「課題対応力」「キャリアプランニング能力」を身に付けさせるよう取り組んでいる。

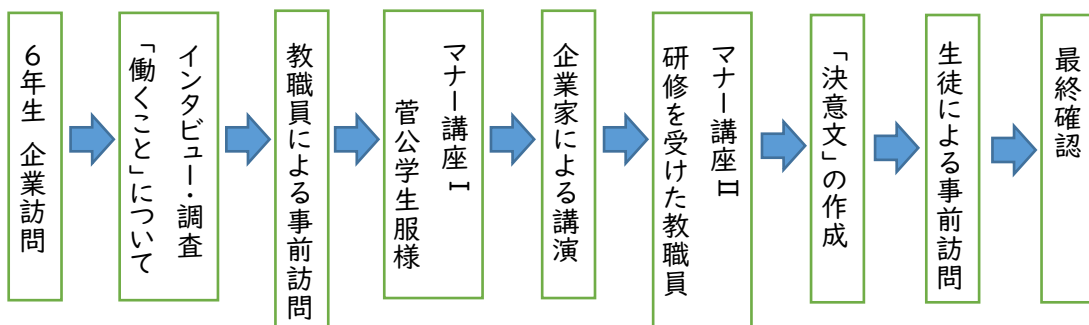
これまでの学習を振り返って、将来について考えたり、「働く」とはどのようなことかを知ったりするために、地域の方々や、企業・事業所の方々にインタビューをするなどして実際に職場を体験し、各自が課題を発見するという取組にしている。そして、その課題の改善策や案を考え、それ

を企業に提案したり、学校行事で自分たちが学んできたことを発表したりする。

(2) 実施計画および内容

ア 取組手順

(ア) 体験前



6年生での「企業訪問」を振り返ることから始め、「インタビュー・調査」を通して、生徒自身がこの学習を自分事として捉えることができるように、「働く」とはどのようなことか考えさせる。体験する事業所についての情報収集をするために、いくつかの企業や事業所に教職員が依頼をし、来校していただいて、学校でインタビューをする。

インタビューでは、次のような質問を実施した。

【事業所・企業への質問項目例】

- ・なぜ、この仕事に就かれたのか。
- ・「働く」とはどういうことだと考えておられますか。
- ・仕事をするうえで大切にされていることは何ですか。
- ・日常から仕事にアイデアを取り入れることがありますか。

同時に、教職員は体験する事業所を事前訪問し、この活動で育成を目指したい2つの資質・能力について共有する。

マナー講座を受講し、決意文を書くことで、課題を明確にし、この体験学習での目標を決めて取り組むようにする。また、決意文を書くことで、自分の将来について考え、「キャリアプランニング能力を身に付けることができるようにする。書く際に、生徒は思考ツールのマッピングを用いて自分の考えを整理し、文章化するよう指導している。前期課程の国語科で学習してきた作文の学習や、府中市の独自教科である「ことば探究科」の「意見型パラグラフ」での学習も関連付けて、キャリア体験学習に向けて、自分が身に付けたい資質・能力を決めて、自分の考えを書くようにしている。



企業へのインタビュー

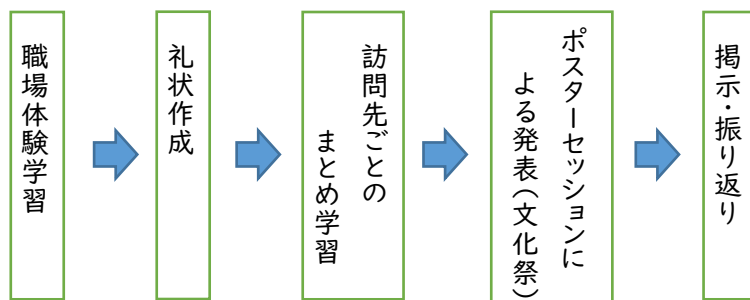


事業所への事前訪問



決意文を書くためのワークシート

(イ) 体験後



体験後は、事業所ごとに学び得たことをまとめ、文化祭や授業で、保護者や地域の方々、事業所の方々、他学年の生徒に向けてポスターセッション(発表)している。ポスターには、「『働く』とはどのようなことか?」に対する自分なりの考えや、事業所の課題の改善に向けたグループの提案等を掲載する。ポスターは廊下に掲示し、他学年の学習のつながりが分かるようにしている。



職場体験学習



文化祭でのポスターセッションによる発表



(3) 取組の成果

生徒・事業所・保護者の振り返り・感想には次のようなものがあった。

生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・「働く」ことについて考えることができた。社員の方にインタビューすると、仕事にやりがいをもっていることがわかった。 ・自分で考えて行動するという目標が最初はできなかったけど、気が付いて動くことができた。 ・キャリア体験学習の4日間で、普段体験できないことをすることができた。「働く」ということは、楽しいこともあるけどずっと立って作業をするなど大変なこともあって、しんどいことも頑張らないといけなかった。 ・キャリア体験学習が、自分が将来したいことは何かを考えるきっかけになった。
事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・決意文を聞いて、生徒さんそれぞれが目標をもって頑張っていた。 ・新しい商品を一緒に考えたが、大人にはない純粋さとクリエイティビティを感じることができた。 ・利用者さんが大変喜んでいて、なかなか地域の生徒と会う機会が少なく、自分の人生経験や教訓を語る事ができたようで、とにかく喜んでいて。 ・わからないことは尋ねてほしかった。3日目からは、次に何をするのがいいか、考えて動けるようになった。
保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・7年生になり半年が経ち、視野が広がっているのを、会話・行動から感じ取ることができた。その背景には、キャリア教育があると思う。親の仕事観、学区内の企業訪問、キャリア体験学習と、インタビューや準備・発表を通じて自分の将来を思い描く機会に恵まれ、新聞や本もよく読んでいる。

生徒の振り返りから、自分の将来の仕事の職種について改めて考えていることがわかる。自分の得意不得意や興味・関心などについても考え、自己を分析する姿も見受けられる。また、実際に仕事を体験することで、自分がすべき作業は何か、次にどのように動けばよいかといった「課題」を見つけ、それを解決しようと取り組んだ姿も見られる。また、事業所も生徒とともに過ごすことで、新たな刺激を受け取っておられると考える。そして、保護者は、我が子の視野の広が

り、成長をキャリア教育の成果と捉えておられることから、キャリア体験学習は生徒の資質・能力の向上に効果があると考える。

(4) 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

キャリア体験学習において、効果的に目指す資質・能力を育成するためのポイントは2つある。

1つ目は、事後学習としてポスターセッションによって、自分たちの学びを発信することである。また、体験学習当日には、作業や仕事を体験するとともに、生徒から企業や事業所の改善に向けて「提案」をするという探究的学習をすることである。

2つ目は、各事業所に学校が育成を目指す資質・能力を伝え共有することである。この学習によって、どのような力を身に付けさせ、どのような生徒の姿を目指しているかを共に意識して取り組む。そして、それらを生徒とも共有する。生徒自身が身に付けたい資質・能力について考え、明確な目標をもって取り組ませる。

3 外部人材を活用した面接体験

(1) ねらい

- ・将来の生き方に関する情報を、目標をもって適切に収集・整理し、自己の個性や興味・関心と照らして考えるための契機とする。
- ・外部の方(自分のことを知らない人)に対して、どのようにして自分のことを伝えればよいか考えて表現する。
- ・社会の一員としての自覚や責任をもち、社会生活を営む上で必要なマナーやルールを身に付ける。

目指す資質・能力:① 課題を乗り越える力(課題対応能力)
② 未来へつなげる力(キャリアプランニング能力)

(2) 実施計画および内容

9年生の学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現 ウ 主体的な進路の選択と将来設計」の単元で実施している。1回目は地域の企業(株式会社中国銀行)と2回目は地域の方々(学校運営協議会委員と企業支援チーム(本章の3(4)を参照))にお願いしている。

企業や地域の方々とは、この取組の趣旨や生徒の目指す資質・能力を共有するための事前打ち合わせをすることが重要である。目指す生徒の姿を共有することで企業や地域の方々も参画しやすくなる。メールやオンラインも活用しながら、面接実施方法や評価基準について説明するとよい。

また、面接時のあいさつや身なり・服装などの基本的なマナーは株式会社菅公学生服に出前授業をお願いし教えていただいた。

ア 学習内容と指導目標

	学習内容	指導目標
①	○自己実現に向けた情報の収集・精査を行う。 ・最高学年として相応しい姿を考える。 ・色々な職業について調べたり、色々な職種の方にインタビューをしたりしながら、自分の目指す将来像を設計する。	・自分の人生プランの実現に向けて、様々な情報から自分に必要な情報を取得し、将来設計に生かすことができる。

②	○面接体験の意義を理解し、自己表現内容を考え練習する。 ・グループでの練習を行う。	・意義を理解し、自己を振り返り、面接練習での自己アピールや受け答えなどのアウトプットができる。
③	○社会生活で必要なマナーについて習得する。 ・株式会社菅公学生服による出前授業を実施する。	・面接の基本的なマナーを理解し、社会生活を営む上で必要なマナーやルールを身に付けることができる。
④	○自己認識し、自分らしさを表出した自己表現の模索と練習をする。 ・クラスでの相互練習を行う。 ・校長面接指導を実施する。 3～4人1組のグループ面接	・自分らしい生き方や考え方が表出している自己表現ができる。
⑤	○外部人材(企業)との面接体験を実施する。 ・株式会社中国銀行による面接練習を実施する。(3～4人1組のグループ面接) ・面接評価のフィードバックを行う。 (面接終了後、面接官のコメントが入った面接評価シートを生徒に渡し、すぐに生徒自身が振り返られるようにする。⇒評価の効果的利用)	・自分のよさや将来の目標などを、自分の言葉や方法で、相手に伝えることができる。 ・面接官からの指導や「面接評価シート」を真摯に受け止め、自己表現内容や表現方法の課題などを改善しようとする。
※ 事前に学校と企業で面接内容・方法についての綿密な連携を行う。		
⑥	○自己実現に向けた情報の取捨選択と将来設計の再構想を行う。 ・外部人材(企業)による面接体験から得た情報をもとに、自己表現の見直しをする。 ・再度自己表現の練習と生徒どうして面接練習を行う。	・外部人材(企業)による面接体験や再度集めた情報から自分の将来のビジョンや表現方法を改善することができる。
⑦	○外部人材(地域)による面接体験を実施する。 ・学校運営協議会委員・企業支援チームの方々による面接を行う。 ・個人面接を行う。 ・面接評価のフィードバック (面接終了後、面接官のコメントが入った面接評価シートを生徒に渡し、すぐに生徒自身が振り返られるようにする。⇒評価の効果的利用)	・自分のよさや将来の目標などを、自分の言葉や方法で、相手に伝えることができる。 ・面接官からの指導や「面接評価シート」を真摯に受け止め、自己表現内容やその仕方の課題などを改善しようとしている。
※ 事前に学校と企業で面接内容・方法についての綿密な連携を行う。		



株式会社菅公学生服による
出前授業「マナー講座」



学校運営協議会委員と企業支援
チームによる面接体験

イ 面接体験の指導観点

目指す資質・能力を身に付けさせるための面接体験にするためには、評価観点を吟味する必要がある。また、外部人材の方々に評価していただくので、評価観点を焦点化し、評価基準も簡潔にするとよい。評価内容の表現は、具体的で分かりやすく、簡潔な表現にすることで、企業や地域の方々に、より参画していただきやすい取組になる。

面接体験評価シート
【改善前】

評価項目	評価	改善点
面接態度・礼儀	◎ ○ △	
応答内容	◎ ○ △	
面接終了挨拶	◎ ○ △	
その他	◎ ○ △	

➔

【改善後】

評価項目	評価	改善点
面接態度・礼儀	◎ ○ △	
応答内容	◎ ○ △	
面接終了挨拶	◎ ○ △	
その他	◎ ○ △	

図表をクリック！

(3) 取組の成果

ア 生徒の振り返りから

- ・面接体験で、相手に分かりやすく伝えるためには相手の目を見て話すことの重要性を実感することができた。それは、将来仕事をするうえでも大切だとわかった。
- ・企業や地域の方々に面接をしていただいて、将来働く際に必要な態度や話し方について貴重なアドバイスをいただくことができた。
- ・面接体験で実際に自分の考えを伝えてみて、思っているより相手に伝わらないことが分かった。いただいたアドバイスをもとに、友達と練習して改善することができた。

イ 教師側の感想

- ・教師が行う面接練習よりも、外部人材の面接体験の方が、生徒にとっては本番と同じ緊張感と臨場感を体験でき、実社会の厳しさを実感していた。
- ・自己認識の弱さを自覚でき、再度自分の将来についてじっくり考え直す生徒が多かった。



株式会社中国銀行面接体験



面接の評価後のペア練習

(4) 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

この取組は、外部人材の方々にご協力いただくので、育成を目指す資質・能力を共有することが重要である。また、評価の方法や観点を事前に伝えるようにする。さらに、企業や一般社会で社員や大人として必要とされる資質・能力や、育成を目指す資質・能力を大人になって活用した場面等について話していただく時間をもつことも大切である。

4 学校独自の取組

(1) スタートカリキュラム

ア ねらい

キャリア教育の取組の一つとして幼保小連携接続がある。「スタートカリキュラム」は幼保小連携接続の中で、入学当初と夏休み明けの数週間にわたって実施しているカリキュラムである。小学校入学当初の児童が、小学校での学習や生活を楽しいと感じ、小学校を自分の居場所として認識できるようにするために、幼児期に親しんだ活動や環境づくりを取り入れたり、生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定をしたりしている。入学した児童が幼児期における学びを基礎として、主体的に自分の思いを伝えたり、友達と上手に関わったりしながら学ぶことができるようになることを重視している。

目指す資質・能力：他者とうまくやっていく力（人間関係形成・社会形成能力）

イ 実施内容

幼保小連携接続として、府中市全体で「架け橋カリキュラム」を実施している。このカリキュラムは、幼稚園・保育所の年長児と1年生での目指す姿や指導内容、交流内容等を共有することで子供達が幼保小のよりよい接続ができるように作成している。この中で、1年生の取組として、入学式の翌日から学校運営協議会の中の組織の一部である学習支援部会の呼びかけで結成された「なかよし隊」とともに取り組んでいる。幼稚園や保育所での学びと育ちと前期課程（小学校）の教科を融合させたこの「スタートカリキュラム」に取り組むことにより、今までに身に付けた学びや育ちを生かしながら学校での学習に抵抗感なく移行できている。登校後、朝の支度が終わった児童から、コミュニティールームである「むらさきラボ」に移動し、自由遊びをするなど、幼稚園や保育所のとおり同じ流れで活動し一日をスタートする。「なかよし隊」を中心として、時には保育者も参加しながら、児童たちは読み聞かせを聞いたり、音楽を聴いて体を動かしたりするリトミックなどの「なかよしタイム」を過ごした後、担任による国語や音楽、体育との合科・関連科の学習を行う。様々な遊びや活動を通して、「人の話を最後まで聞く」ことや「時間を守ること」など学習活動の基盤となる学びを積み上げている。本校のキャリア教育のスタートである第1学年において、地域の方など家族以外の人と関わりをもつことを通して、協働性や思考力を育みながら、学習活動を継続していける素地を養うことができるよう取り組んでいる。

【スタートカリキュラムの一日の流れ例】

	活動	活動例
①	朝の支度	提出物を出す。ランドセルを片付ける。 ファーストステージの最高学年である4年生と一緒に 行う。
②	トイレに行く	4年生と一緒にいく。
③	むらさきラボへ行く	4年生と一緒にいく。
④	自由遊び	教室にあるレゴブロックやお手玉、折り紙などで遊ぶ。 (なかよしタイム)
⑤	読み聞かせ	「なかよし隊」による絵本の読み聞かせ（なかよし タイム）

⑥	健康観察	好きな〇〇紹介も併せて健康観察をする。
⑦	合科・関連科	歌や手遊び、リズム遊びをして遊ぶ。

【令和4年度 スタートカリキュラム及び下川辺保育所との連携】

日程	場所	内容
4月	府中明郷学園	・スタートカリキュラム開始 ・保育園の先生が参加してともに活動
6月上旬	府中明郷学園	・保育者による1年生の授業 ・授業後の感想と実態交流
10月上旬	篠根八幡神社	・年長児と1年生でフィールドワークと秋見つけ(生活科)
10月下旬	府中明郷学園	・1年生の文化祭発表(国語科「くじらぐも」)を年長児と保育者が見学
12月	府中明郷学園	・秋のおもちゃ祭り(ドングリを使った手作りおもちゃでの遊び)に年長児を招待
2月	府中明郷学園	・生活科において「お正月の遊び(福笑い、竹とんぼ、羽根つき、凧あげ)」体験を園児・児童合同で開催 ・1年生が年長児にお正月遊びの遊び方を教える ・年長児と3年生の交流会(鬼ごっこやクイズなど)
3月3日(金)	府中明郷学園	・1年生による学校案内、プレ学習体験、遊び、プレゼント渡し等 ・来年度入学児童の連携

ウ 取組の成果

【1年生児童の姿から】

入学後、初めて会う同級生となかなか関わることができなかつたり、慣れない場所で過ごしたりと、学校生活に不安を抱えている児童にとって、スタートカリキュラムは安心感をもたせ、友達づくりにも大きな役割を果たしている。友達と関わるのが難しかった児童も次第に輪の中に入り、楽しく活動する姿もあった。

また、保育所との交流行事において、学びと育ちをつなぐという視点で活動し、相手意識をもって行動ができ、幼児にとっても児童にとっても成長する機会となっている。保育所以外の「社会」を知ることができ、人間関係を広げることができる。

【4年生児童の姿から】

ファーストステージのリーダーとして、1年生とともに活動する異学年交流をすることで、人と関わることの楽しさを味わうことができている。身近な人々に関心をもち、積極的に関わろうとする姿が見られる。相手の意見に耳を傾け、人のために役に立とうとすることができ、4年生にとっても成長の場となっている。



「なかよし隊」による
「なかよしタイム」



年長児と1年生で
「お正月遊び」



1年生と4年生で
登校後の授業準備

【目指す資質・能力を育成するための取組のポイント】

「人間関係形成・社会形成能力」を身に付けさせるために、小学校の教員と幼稚園・保育所の保育者の連携が重要である。小学校教員は、幼稚園・保育所へ出向き、保育参観や保育体験を行うことで、保育、教育について理解を深め、幼保小中と子どもの学びが繋がっていることを把握することが必要である。また、小学校教員と保育者が、子供の育ちや環境設定の工夫、援助や配慮について理解を深めたり、スタートカリキュラムの役割について考えたりすることで、入学前の連携を充実させ、幼児期の育ちを生かし、子供の実態に応じた指導ができる。これを計画的に行うために、本学区では、幼稚園・保育所のアプローチカリキュラムと、小学校のスタートカリキュラムを接続・連携した架け橋カリキュラムを作成し、実践している。



前期課程の学級通信を
保育所の教室に掲示

キャリア教育のスタートとなる1学年の実態を知ること、9年間を系統的に指導することにつながるの、地域の「かわら版」(中国新聞地方版)や学級通信を定期的に交換して掲示したり、互いに参観したりすることを通して、意識共有を図っている。



前期課程・後期課程教員による
保育参観・体験と協議会

下川辺保育のアプローチカリキュラム



府中明郷学園のスタートカリキュラム

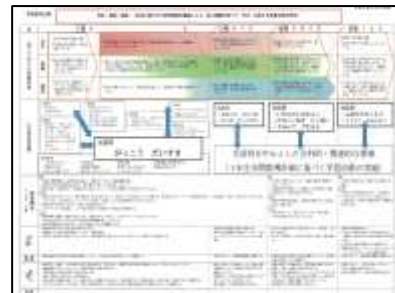


府中明郷ブロックの架け橋カリキュラム

(左) 架け橋カリキュラム



(右) 府中明郷学園 スタートカリキュラム



(2) 地域協創カリキュラム

ア ねらい

児童生徒が府中市や社会について知り、様々なことを体験して学んでいく中で、児童生徒が生涯に渡って必要とされる資質・能力を育成することをねらいとしている。

その手立てとして、生活科および総合的な学習の時間において、「外部人材」を活かした「地域協創カリキュラム」を展開しており、地域の方々のみならず、様々な企業の方々と協働的に資質能力の育成を図っている。

- 目指す資質・能力：① 課題を乗り越える力（課題対応能力）
② 未来へつなげる力（キャリアプランニング能力）
③ 他者とうまくやっていく力（人間関係形成・社会形成能力）
④ 自己を磨く力（自己理解・自己管理能力）

イ 実施内容

生活科および総合的な学習の時間を軸とした、9年間の継続的・系統的な取組で、自分や身の回りの人たちについて知ることから始め、自分たちが住む地域を知ったり、地域の産業や企業について知り協働的に学んだりしている。

【地域協創カリキュラム全体イメージ図】



(ア) 【1年生：生活科プロジェクト】

① ねらい

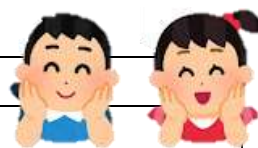
種まきの行程から野菜の世話をする過程を体験することを通して、野菜が成長することへの喜びや成長への願いを絵や文章で表現することをねらいとする。また、地域の方に育て方を教えていただいたりグループごとに野菜の世話をすることで協力したりすることもねらいとする。

② 付けたい力

目指す資質・能力：他者とうまくやっていく力（人間関係形成・社会形成能力）

③ 内容

「きれいにさいてね」



次	学習内容
1（課題発見）	・自分が知っている野菜について、友達と交流する。 ・野菜の育て方を考える。
2（計画・実施）	・野菜の苗の植え方について、学校運営協議会委員の方に講師を依頼し、教わる。 ・野菜の世話・観察を行う。
3（まとめ）	・観察から分かったことなどをまとめる。 ・野菜の世話や観察を通して、竹内さんへの感謝の気持ちや学んだことを手紙で文章に書いて伝える。
4（発表）	・講師をやきいもパーティー（PTCでの位置付け）に招待して、収穫した焼き芋を使って一緒に調理を行う。
5（振り返り）	・学習を通して学んだことを振り返り、学級で交流する。

④ 取組の成果



野菜を育てるコツを教えてくださいました。
水やりの大切さがよく分かりました。



サツマイモの苗をみんなで植えました。土で山を作って、そこに寝かせて植えました。水やりを頑張ります。



たくさんの野菜を収穫することができました。
大きく元気に育ってくれて嬉しいです！

野菜を育てる学習活動を通して、野菜が大きくなる喜びや成長してほしいという気持ちをもつことができた。また、自分たちで植えた野菜を育てようとする責任感も育むことができた。

⑤ 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

生活科の学習内容を体験的に学ぶ中で、地域の方に教えていただくことで、目指す資質・能力である「他者とうまくやっていく力」を養うようにする。学園便り等で、学校での学びの様子を発信することで継続した協力が得られるようにする。

(イ)【2年生：生活科プロジェクト】

① ねらい

地域の様々な場所を調べたり町探検に行ったりする活動を通して、自分の生活は様々な人や場所と関わっていることを知り、自分との関わりについて考える。

② 付けたい力

目指す資質・能力：他者とうまくやっていく力（人間関係形成・社会形成能力）

③ 内容

「どきどきわくわくまちたんけん」

次	学習内容
1 (課題発見)	・グーグルマップを活用して探検に行きたい場所を決定する。 ・質問したいことや質問に対する予想を立てる。
2 (計画・実施)	・各グループに分かれて地域のお店や施設に出かける。 ・お店や施設の方に質問をし、課題解決に迫る。
3 (まとめ)	・各自で町探検を通して学んだことを整理する。
4 (発表)	・学園文化祭に向けて発表方法を考える。 ・町探検を通して学んだこと・考えたことを模造紙にまとめる。 ・学園文化祭で保護者・地域の方に学んだことを発表する。
5 (振り返り)	・自分たちの住む町と自分との関わりについて考える。

④ 取組の成果



こばやしのパンやで売られているパンの種類が多さに驚きました。お店の人は、お客さんに美味しいと思ってもらえることが一番うれしいことだと分かりました。



かたおかさんでは、おいしいお好み焼きや他の料理も作っていることを知りました。家の近くにおいしいお店があるのでうれしいです。お店の人とたくさん話げできました。

地域の様々な場所を知る活動を通して、児童は自分たちの生活が身近な人や場所と関わっていることを再確認できた。また、児童は、聞いたこと・調べたことの中から必要な情報をまとめ、他者に分かりやすく伝える方法についても考えることができた。

⑤ 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

生活科の学習内容を地域とともに進め、学習後は、ポスターを作成したり、地域の方々へお礼の手紙を書いたりする。それにより、学習のまとめをしたり地域の方々に感謝の気持ちを伝えたりして取組の継続を図るようにする。

(ウ)【3年生：地域発見プロジェクト】

① ねらい

地域の自然に触れたり、伝統文化の保全に取り組む人々や組織と関わったりすることを通して、町づくりや地域活性化のために、自分たちがどのように地域の魅力を伝えることができるか考える。

② 付けたい力

目指す資質・能力：他者とうまくやっていく力（人間関係形成・社会形成能力）

③ 内容

「校区の自然を調べよう～オオムラサキの里～」

次	学習内容
1 (課題発見)	・校区で保護しているオオムラサキについて知る。 ・地域の自慢であるオオムラサキを守りたいという思いをもつ。
2 (計画・実施)	・オオムラサキについて調べる。 ・オオムラサキの里に行き、説明を聞いたり観察したりする。
3 (まとめ)	・オオムラサキ新聞を作成し、交流する。
4 (発表)	・学園文化祭に向けて発表方法を考える。 ・学園文化祭で保護者・地域の方に学んだことを発表する。
5 (振り返り)	・自分と地域とのつながりについて振り返る。 ・地域の自然の大切さについて振り返る。

④ 取組の成果



府中オオムラサキの里



「オオムラサキ新聞」
の作成と交流

オオムラサキのオスとメスの大きな違いは、オスはきれいな紫色で、メスは茶色であることです。なぜなら、オスはメスにきれいな色をアピールするために、メスは目立つ色だと敵に襲われやすいので、身を守るためです。今回オオムラサキの里へ行って、自分たちの住む地域の自慢であるオオムラサキをこれからも守っていきたいと思いました。

地域を知り、体験を含めた活動を通して、自分たちの地域には自慢できる場所があることやそれを守ろうとしている人々の思いを知ることができ、地域のよさを伝えようと、主体的に活動している児童の姿が見られた。また、調べたことを整理・分析し、地域の活性化のために自分たちがができることについて、他者に伝えるという相手意識や目的意識をもって考え、表現することができた。

⑤ 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

府中オオムラサキの里を訪問する前に、2年生までの自分たちが住む地域についての学習を振り返り、地域の自然について考えることが大切である。訪問後は、新聞を書くことで自分の学習を振り返ることができるようにする。さらに、それらを府中オオムラサキの里で掲示していただき、地域や訪問された方々に子どもたちの学びを知っていただき、取組の継続を図る。

「地域発見プロジェクト」その他の単元の学習内容

- ① 「校区の自然を調べよう～三郎の滝～」
- ② 「阿字和紙を知らせよう!広めよう!」

クリック!

詳しくは
ここをクリック!

(エ)【4年生:怒の心プロジェクト】

① ねらい

怒の心(思いやり)を地域に広げるために、防災・福祉の観点から自分たちに何ができるのかを考え、解決のために工夫する。

② 付けたい力

- 目指す資質・能力:① 自己を磨く力(自己理解・自己管理能力)
② 課題を乗り越える力(課題対応能力)

③ 内容

「福祉」

次	学習内容
1 (課題発見)	・思いやりのある地域を目指すためには、何ができるだろうか。 ・地域の課題を出し合い、活動の見通しを立てる。
2 (計画・実施)	・車椅子や点字の体験をしたり、高齢者の方の身体の不自由さを知ったりする。
3 (まとめ)	・福祉体験を通して学んだことをグループで共有する。
4 (表現)	・学習を通して学んだことや考えたことをスライドにまとめる。
5 (振り返り)	・自分の家族や地域の方々のことを振り返る。

④ 取組の成果

福祉についてのスライド発表



学園文化祭に向けてスライドを作成し、練習方法、工夫点・改善点を児童同士で話し合いました。



資質・能力の項目に合わせた振り返りをする中で、自分にどんな力が身に付いたのかを実感することができました。

「地域を怒の心でいっぱいになりたい」という思いから自分たちに何ができるのかを話し合った。課題意識が明確であったからこそ、児童が主体的に活動し、様々なことにチャレンジしようとする姿が見られた。児童が主体的に行動することで、教職員は学習の目的から逸れないようにとファシリテートの役割に徹することができた。また、学習したことを資質・能力の項目に合わせて振り返ることで、学習を通して自分にどんな力が身に付いたのか実感することができた。

「怒の心プロジェクト」その他の単元の学習内容

- ① 「防災」 ② 「成長」

クリック!

⑤ 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

自分も地域の一員であることを意識させ、自分たちから考えを発信する取組にすることがポイントである。受け身の姿勢で防災や福祉について学ぶのではなく、学習計画の立案や

修正等を含め、主体的に取り組むことができるよう、学んだことを直接他者へ発信する機会というゴールの場を設定するとよい。

(オ)【5年生：ワーキングプロジェクト】

① ねらい

地域の方から米作りの方法について学び、育てた米を用いて自分たちがどんなことができるかを考え、学級や家庭、地域に向けてアウトプットすることをねらいとする。

② 付けたい力

目指す資質・能力：課題を乗り越える力（課題対応能力）

③ 内容

「米作り・勤労」

次	学習内容
1（課題発見）	・地域の農業の現状について、地域の方から話を聞く。 ・自分たちが地域の米作りにどのように貢献できるだろうか。
2（計画・実施）	・地域の人から米作りの方法を学ぶ。 ・地域の人と一緒に米作りを体験する。 ・収穫した米の活用方法について考える。
3（まとめ）	・収穫した米の活用方法を考える。 ・スライドにこれまでの活動をまとめる。
4（発表）	・米の販売を行う。 ・学園文化祭で保護者・地域の方に学んだことを発表する。
5（振り返り）	・学習を通して学んだことを自分の言葉でまとめる。

④ 取組の成果

実際に地域の米作りに携わることで、自分たちの地域で作られた米をもっとたくさんの人に食べてもらいたい、知ってもらいたいという気持ちが児童たちの中で少しずつ広がっていった。米の販売の取組は、販売に至るまでに多くの課題にぶつかったが、その度に解決方法を考え、改善・実践を繰り返し行うことができた。それらのことが活動を通しての児童の達成感にもつながった。



田植えの様子



収穫した米を販売している様子

⑤ 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

生産者の思いや苦勞を知るために、一過程だけではなく1年間を通して学習することがポ

イントである。また、収穫した米を自分たちが食べたり販売したりするなど、生産の喜びを感じられるようにする。その際に、児童たち自身に収穫した米をどうするか考えさせることが「課題を乗り越える力」育成のポイントである。

(カ)【6年生:地域活性化プロジェクト】

① ねらい

働くことの意義や未来の町づくりを考える活動を通して、働くことについて自分なりに定義し表現するとともに、自分が生活したい町の在り方を考えることで、地域の活性化の一助となり、自分の未来を具体的に創造しようとするをねらいとする。

② 付けたい力

目指す資質・能力:① 課題を乗り越える力(課題対応能力)
② 未来へつなげる力(キャリアプランニング能力)

③ 内容

「地域経済・町づくり」

次	学習内容
1 (課題発見)	・「幸せとは何か。」「働くとは何か。」を考える。 ・府中市についての情報収集を行い、府中市が消滅可能性都市であることを知る。
2 (計画・実施)	・実際に働いている人を調べるための計画を立てる。 ・地域の企業を訪問する。 ・調査した内容を基に地域の企業のアピールをする。
3 (まとめ)	・働くことと町づくりとの関係を調べる。
4 (発表)	・学園文化祭で保護者・地域の方に、地域のよさをアピールする目的でアウトプット活動をする。
5 (振り返り)	・働きながら生きる自分の将来について考える。

④ 取組の成果

幸せが資産の多さで決まるという価値観をもっていた児童が、働くことにやりがいや生きがいをもち続ける喜びを知ることができた。これは、将来社会を支える働き手として大切な視点である。また、調査内容を保護者・地域の方にアウトプットする活動を通して、課題と向き合い、自己表現する力を高めることができた。



「企業支援チーム」の3社への企業訪問

⑤目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

企業の方々と育成を目指す資質・能力を共有し、業務内容だけではなく地域の一企業としての思いや考えを見守るに話していただくよう事前打ち合わせをすることがポイントである。また、主に8学年で関わりが深い「企業支援チーム」の企業にご協力いただくこともポイントである。顔見知りになり、つながりを作っておくことが7年生以降の学習に有効である。

(キ)【7年生：職場体験プロジェクト】

※具体については、第3章の2を参照

① ねらい

5年生までの地域についての学び、6年生の「地域活性化プロジェクト」による「働くこと」や地域の産業や企業についての学びをもとに、実際に地域の企業で働く体験を通して「働くこと」の意義を理解し、自分や将来について主体的に考える。

② 内容

「勤労」

次	学習内容
1 (課題発見)	・これまでの学習を振り返り、「働く」「仕事」について考える。「働く」ことを実際に体験するにあたり、情報収集したり、取捨選択をしたりして、今後の学習の見通しをもつ。
2 (計画・実施)	・講話やインタビューを通して、「働く」「仕事」について考える。 ・マナー等について学ぶ。(株式会社菅公学生服による出前授業) ・決意文を作成する。 ・事前訪問を行う。 ・各事業所で体験学習をする。
3 (まとめ)	・キャリア体験学習を振り返り、新たな発見や気づきを整理する。 ・職場にお礼状を書く。
4 (発表)	・学園文化祭で学んだことを発表する。(ポスターセッション)
5 (振り返り)	・今までの自分の生活を振り返り、将来について考える。(キャリア・ログの活用) ・職業体験から、模擬会社経営に向けて役割や活動について考える。

③ 取組の成果

6年生までの系統的な学びを振り返りながら、地域について主体的に考える姿が見られた。また、「職場体験プロジェクト」での学びから、次年度行う模擬会社 LinkS (第3章の4(3)を参照)の引継に向けて自分の適性などについて考えたり、新たな課題解決に向けて調べたりすることができていた。



出前授業によるマナー講座
(株式会社菅公学生服)



キャリア体験学習当日
(リョービ株式会社)

(ク)【8年生：地域協創プロジェクト】

※具体については、第3章4の(3)を参照

① ねらい


1年生からの「地域協創カリキュラム」の学習を振り返り、地域の困りごとの解決や地域活性化を促したり、地域に貢献したりするために、模擬会社経営に取り組むことで、主に課題対応能力やキャリアプランニング能力を育む。また、地域の企業による「企業支援チーム」に支援、援助をしてもらいながら、生徒がPDCAサイクルを回し、生徒が主体的に学ぶ。

② 付けたい力

目指す資質・能力：① 課題を乗り越える力（課題対応能力）
② 未来へつなげる力（キャリアプランニング能力）

③ 内容

「ものづくり(商品開発)・町づくり(地域活性化)＝模擬会社経営活動」

次	学習内容	
1 (課題発見)	<ul style="list-style-type: none"> ・市場調査の準備・実施(アンケート作成、調査場所選定など) ・地域や学校等のニーズを把握し、そこで出てきた課題を解決するために話し合うことで活動していくための見通しをもつ。 	
2 (計画・実施)	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果をまとめ、事業計画書を作成する。見通しをもつ。 ・「企業支援チーム」や企業の方に企画の提案会を行う。 ・提案会での企業の方からのアドバイス等を基に、部署ごとに活動の見直しをする。 ・「企業支援チーム」とともに経営する。 ・学園文化祭や地域のイベント等で企画運営や販売活動を行う。 	
3 (まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ・部署ごと、会社全体で2学期までのまとめを行う。 	 <p>(3学期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめを基に、「引継式」での実践発表の内容について考える。 ・「引継式」を計画立案する。
4 (発表)	<ul style="list-style-type: none"> ・学園文化祭で模擬会社 LinkS 引継式以降の活動を発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「引継式」で模擬会社の実践発表を行う。
5 (振り返り)	<ul style="list-style-type: none"> ・部署ごと、会社全体で2学期までのまとめを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬会社経営活動による学習を振り返り、次年度につなげる。

④ 取組の成果

「商品開発部」、「経理部」、「営業・広報部」の3つの部署に分かれて活動し、自分の得意分野を活かしたり、部署内外で協働的に取り組んだり、生徒は主体的に学習することができた。広報担当のある生徒は、ポスター作成のために情報を収集し、ポスターデザインとキャッチコピーを部署内で提案し、そのデザインが認められ決定したことによって、笑顔が増え積極的に動くことができるようになった。これは、自分で調べ試行錯誤して作成したポスターが周囲の人に認められたことで、自己肯定感が高まったためだと考えられる。また、この取組を通して学校での「学び」が将来の仕事につながると肯定的に捉える生徒が増えるなど、キャリアプランニング能力も高まっている。

(ケ)【9年生:未来創造プロジェクト】

① ねらい

9年生では、「地域協創カリキュラム」を軸として展開してきた系統的かつ横断的な学習を振り返り、地域やこれまでお世話になった方々に対して何ができるかを考える。また、主に課題対応能力やキャリアプランニング能力を育むとともに、その過程で年齢、世代、職種を問わず様々な方々と交流、話し合い、協働していくことで人間関係形成・社会形成能力を育成する。

② 付けたい力

目指す資質・能力:① 課題を乗り越える力(課題対応能力)
② 未来へつなげる力(キャリアプランニング能力)

③内容

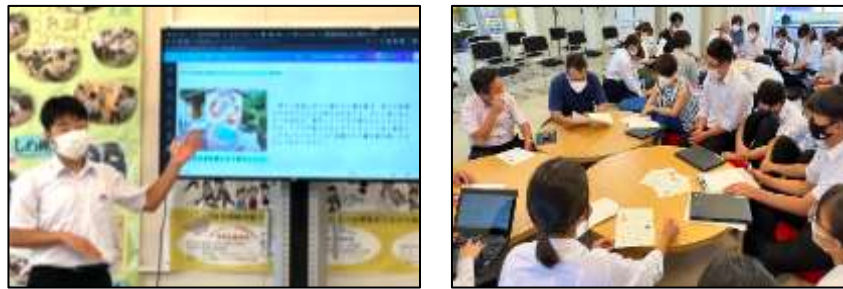
「恩返し大作戦—発信と表現—」

次	学習内容(令和4年度)
1 (課題発見)	・前年度までの学習及び実践内容、地域や企業等との交流を振り返り、地域社会や学校の実態を踏まえ、「貢献」の視点から課題を設定する。
2 (計画・実施)	・企業や地域の方等を招いて、実践の方針や方法を共有し、完成までの見通しをもつ。 ・実践の趣旨を企業や地域の方等に伝え、協力していただけるように依頼する。 ・課題や完成までの作成過程を検討及び共有し、必要な情報を収集及び選択する。 ・地域や学校、企業の方へのインタビューを行う。
3 (まとめ)	・収集及び選択した情報をパンフレットにまとめる。 ・適切な文章表現及びレイアウトを検討する。 ・QRコードを作成(※内容の補足等)する。 ・暫定版のパンフレットを地域や学校、企業の方に紹介し、意見交流を行う。(中間発表会) ・意見交流でのアドバイスや振り返りを基に修正点を検討する。
4 (発表)	・完成したパンフレットを地域や学校、企業の方等に紹介する。 ・「貢献」の視点から広く周知できる方法を検討し、実施する。
5 (振り返り)	・持続的な実践とするために、実践内容をまとめ、交流する。

④ 取組の成果

これまで学んだことを生かし、自分たちが地域とともに育ってきた9年間を振り返り、「恩返し大作戦!~自分たちが成長・協力している姿を見せ、地域の人を笑顔にさせる~」という実践理念を掲げて、学校・地域・関わってくださった企業の魅力を紹介するパンフレットを作成した。地域の方々、模擬会社 LinkS でお世話になった「企業支援チーム」をはじめとする県内外の企業の方々へ、パンフレット作成の意図や自分たちの思いを伝え、試行錯誤しながら作成する中で、「人間関係形成・社会形成能力」や「課題対応能力」を高めることができた。

また、多くの社会人の方々と関わることで、多様な職業を知ったり、社会のマナーなどを体験的に学んだりすることによって「働くこと」について考えるようになるなど、「キャリアプランニング能力」も高まった。



中間発表会での提案と協議

⑤ 目指す資質・能力を育成するための取組のポイント

これまでの「地域協創カリキュラム」における学習を振り返り、最高学年である9学年として何をすべきか、何ができるかを考えさせることがポイントである。それを実現するための計画も生徒に考えさせる。

また、教師はファシリテートすることについて徹し、生徒の学びをサポートすることもポイントである。生徒が自ら考え、判断し、行動する力を身に付けることができるようにするのである。解決が難しいことが発生した際も、生徒達は、教師だけではなく「企業支援チーム」や学校運営協議会委員に相談している。9年生までの様々な学習で培った地域や企業等とのつながりを生かすことができるのである。

(3) 模擬会社経営活動

ア ねらい

生活科および総合的な学習の時間において、「地域協創カリキュラム」として、児童生徒は自分たちの住む地域について知り、様々なことを体験し学んでいる。8年生では、これまでの学びを生かし、模擬会社を経営する。模擬会社として商品開発や営業、広報、販売活動をしながら、社会や会社・企業の仕組み、経営について学んだり、様々な課題に取り組んだりする。また、地域や産業界と協働的に取り組むことで、コミュニケーション能力を高めたり、勤労観や職業観を形成していくきっかけとしたりして、キャリア発達を促す。

目指す資質・能力：① 課題を乗り越える力（課題対応能力）
② 未来へつなげる力（キャリアプランニング能力）

イ 実施内容

(ア) 年間活動計画

8年生で実施する「地域協創プロジェクト(模擬会社経営)」は、7年生の3学期後半の「引継式」から始まる。プロジェクトの流れは以下の通りである。

7年 3学期	(初年度のみ「経営理念」と「会社名」、「ロゴ」の決定) ・次期社長・副会長の決定と社員の部署決定 ・「経営理念」の理解・解釈 ・「引継式」決意表明	企業支援チームとの連携
8年 4月	模擬会社の活動内容についての協議	
5月～7月	・事業内容の検討 ・商品・サービスの決定 ・商品・サービスの開発 ・市場調査・アンケート等の実施	
7月・8月	・試作品、必要物品の発注 ・商品、企画の改善	
9月	販売、運営に向けての準備	
10月～12月	販売、運営活動	
1月・2月	・決済 ・「引継式」に向けて活動のまとめ	
3月	「引継式」	

この「地域協創プロジェクト(模擬会社経営)」は、課題解決型のプロジェクトであるため、活動時期や内容はあくまで目安である。教師がすぐに答えを示さないことで、生徒の主体的な学びが育まれる。その代償として、失敗やミスも生まれるが、教師はファシリテーターに徹し、その失敗やミスも「学び」と捉え、発生した課題に対してどのように対処していくかを生徒たちは自ら考え、自分たちなりの最適解を導き出している。

(イ) 地域・産業界との連携、支援体制

このプロジェクトは模擬的とはいえ、会社経営は生徒はもとより教員にとっても未知の分野であるため、地域の企業家の方々に「企業支援チーム」として協力していただいている。「会社」とはどのようなものか、「経営」とはどのように行われるべきかなど、1年を通して助言していただいている。



右上の図にあるのが「企業支援チーム」で、模擬会社設立当初4社からスタートしたが、この経営活動での出会いやつながりから3社増え、現在は7社の企業に支援していただいている。経営理念を設定する際にもアドバイスをいただいた。下記の表は、連携の例である。

〈企業支援チームとの連携例〉

・ 「仕事」について講演	・ 経営理念の提案
・ 商品決定の際のアドバイス	・ 商品素材のサンプルの貸出
・ 発注企業の紹介	・ 商品についての相談
・ 経理・会計の方法の相談	・ 営業先の相談
・ 売上や支払いについて講演	・ 営業・広報の仕方の相談
・ 支払い方法の相談	・ 顧客の獲得
・ 値段決定の相談	・ HP へのアドバイス



試作品の交渉
(商品開発部)



お金の管理についての相談
(経理部)



作成したホームページの相談
(営業・広報部)

(ウ) 具体的な活動

模擬会社の経営にあたっては、まず「経営理念」を決めた。それは、活動の、つまり学習の目的・ねらいともなり、方向性を示すからだ。課題解決型の活動であるため、社員(生徒)全員で決めたその経営理念を常に念頭におき、地域のために生徒たち自身が何をすればよいか、どのように動いていけばよいか考えながら活動するよう、教師がファシリテートしていくようにするとよい。本校ではこれまで生徒たちが考えた商品の開発・販売を行ってきた。それらに加えてイベントの実施も活動案として出たこともあるが、「何のために会社を経営し、どのような力を身に付けるか」を見失うことがないよう、活動の折に触れて経営理念に立ち返ることで必要な活動かどうか生徒自身に判断させることができている。

模擬会社 LinkS —経営理念—

お客様、地域と会社がつながって一丸となり社会に貢献する
～自ら考え判断し行動することで笑顔と感謝の虹をかける～



模擬会社ロゴマーク

①商品開発・販売に関して

これまでの商品の開発・販売では、商品を地域の企業とともに開発・販売することで、地域を活性化させたい思いと、販売によって府中市以外の方に府中市を知っていただく機会とすることをねらいとして取り組んだ。自分がただ欲しいものを作るのではなく、常に経営理念を念頭におき、「何のために商品開発をし、販売しようとしているのか」を考えながら活動するようファシリテートしていくことが大切である。

商品の決定までは、次のような手順で行うとよい。

【商品決定の手順例】

- 府中市や地域の良い点、課題点をあげる
- 府中市や地域の特産を調べる
- 府中市や地域の企業について前学年までの学習を振り返る
- 社会背景や消費のニーズをアンケートや市場調査等でリサーチする
- 商品開発・製作に協力してくださる企業を探し交渉する
- 商品を企業とともに製作する(試作品の製作)
- 試作品をもとに商品を改良し、完成させる

商品のデザインや素材、サイズは、企業に作成が可能か、相談しながら進めるとよい。その道のプロに尋ねるのが最善である。



エコバッグの生地や留め具の
選定(令和3年度)



商品である「木の皿」について企業支
援チームと協議(令和5年度)

そして、試作品を作っただき、原価も決めていく。試作品が完成したら、経理部を中心に次のような手順で値段の設定をしていくとよい。

【値段決定の手順例】

- 協力企業に試作品の原価を尋ねる
- 商品の値段について市場調査をする
- 企業の方から値段の決め方や経理についての講話を聴く
- 企業の希望販売価格に模擬会社としての利益を乗せる
- 梱包や商品の配送について調べ、送る場合は値段に上乘せする

商品が出来上がり、値段も決まれば、次は販売である。販売方法は、大きく分けて店頭販売と電話やネットによる受注販売になる。学校行事での販売は、地域・保護者の方々に活動や学習状況を知っていただくよい機会となるだろう。生徒たちの活動、学習態度を見ていただくことも地域のためになると考える。本校では、学園文化祭、府中市のイベントである「学びフェスタ」、修学旅行で訪れる東京にある広島県府中市アンテナショップ「NEKI」で販売してきている。また、地域の商工会議所が企画・運営する「ハッピーサンデーマーケット」にも出店したことがある。

出店・販売の手順例を示す。

【出店・販売の手順例】

- 販売日、場所を決定し、広報活動をする
- 商品の発注をする
- 予約表・領収書を作成する
- 販売活動用のチラシやパンフレットを作成する
- 営業方法について検討し、社員全員で練習をする
- 梱包に必要な物品の準備と添えるメッセージを作成する
- 販売会場の準備(机やテント等)をする

② 経理に関して

商品開発と同時に、経理部はその商品の値段決定のために、似た製品の値段の相場を調査したり、市場調査としてアンケートを実施したりする。また、模擬会社として「経理」の仕組みや事務処理についても知っておく必要がある。しかし、教員はそれらについて専門外なので、本校では企業支援チームにお願いし教えていただいた。経営において、値段設定は「原価」や「粗利益」、「人件費」等について考える必要があることを学び、これを通して生徒たちは実生活での買い物や商品の値段について関心をもつようになるなど、学校での学びが実生活や将来の職業につながっていく。

実際の販売では、「注文書」または「予約表」が必要となるので、販売前に作成しておく。それらに購入希望の色や数を確実に記入し、ミスのないようにする。また、収支報告書を作成しその都度記入をして漏れの内容にすることが必要である。実際の現金の管理は教員が行う。会社名義の口座(本校は「ゆうちょ」で作成)を開設し、ネット注文の方にはそこに振り込んでいただくとうい。

お客様の精算のあと、企業からの原価に対する請求書をもとに支払いをする。実際の支払いも生徒から企業に連絡し支払いを体験させる方が、生徒の職業観を養うのに効果的である。その支払いも模擬会社の支出として収支報告書に記載する。そして、8年生の3学期に決済をして、税金の支払いをする。本校は教育委員会を通じて納税し、同時に引継式に向けてまとめをしていくようにしている。

【経理の活動内容例】

- 値段決定に向けての市場調査、アンケートの実施
- 経理について学ぶ(地域や企業の方々の協力)
- 値段決定
- 注文書、予約表、企業への発注書の作成
- お釣りの準備と販売
- 収支報告書の作成と管理
- 決済(企業への支払い)
- 税金の支払い

このような手順で商品の開発から発注、販売、商品のお届けを、まさに本物の会社のように行うことで、実社会の仕組みを学んでいくことができると考えている。

(エ) 模擬会社経営のまとめ

模擬会社経営活動は、8年生の3学期に決算を済ませ、模擬会社を次の学年に引き継ぐことで活動のまとめをしている。7年生の3学期に、8年生から模擬会社 LinkS を引き継いでからの1年間の経営活動をスライド等を用いて、「引継式」で発表する。それまでの活動を振り返り、活動内容だけでなく、目指す資質・能力が身に付いたかどうか、生徒自身の言葉で地域やお世話になった企業の方々に伝えるとよい。この発表により、生徒自身が自己理解を深め、自己表現力やプレゼンテーション力等も身に付けることができる。



「引継式」



「引継式」でのステージ発表

ウ 取組の成果

模擬会社経営を通して、生徒一人一人がそれぞれ、楽しさとともに大変さも経験しながら学習している。学校独自で実施している「キャリア教育に関する児童生徒アンケート(第2章の4参照)」の結果をみると、8年生の1年間で肯定的評価が伸びている。

【令和3年度8年生アンケート】

設問番号	設問項目	1学期 (7月)		3学期 (3月)
7	得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか。	45%	⇒	64%
8	「分からないことやもっと知りたいことがあるとき、自ら進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問をしたりしていますか。」	48%	⇒	67%
12	「自分の将来について具体的な目標をたて、その実現のための方法について考えていますか。」	42%	⇒	64%
13	「自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の方法を工夫したりしていますか。」	33%	⇒	67%
14	「社会の様々な仕事について知り、よりよい自分の未来・将来について、興味・関心を持つようとしていますか。」	64%	⇒	84%

設問8の結果から、模擬会社の経営活動をしたことにより、わからないことや知らないことについて情報収集をしたり、企業支援チームの方などに尋ねたりして、本校の目指す資質・能力である「課題を乗り越える力」、「課題解決能力」が身に付いたと考える。また、将来について考えるきっかけをもつことができたことで、日々の学習に対して意欲的に取り組むことができ始めたと考えられる。実際、経理部のある生徒は、人前で話すのが得意ではなかったが、商品の値段を決定する場面で、部署内の生徒とともに、他の社員の前で、理由・根拠を述べながら説明することで、周りを説得することができた。また、年度終わりのキャリア・ログを見ると、身に付いた力、または、これからさらに身に付けたい力として、「お客様や企業支援チームの方々と接したことで、目上の方に対する敬語や丁寧語の重要性や、自分の意見をはっきりと伝える力の必要性を実感し、それらを身に付けることができた、また、さらにその力

を伸ばしたい。」と書いた生徒がいた。生徒同士や多くの地域、企業の方々と相談したり交渉したりすることで、「人間関係形成・社会形成能力」も高まったと考える。

さらに、HP の作成やデザイン作成のアプリの使用、Google Meet や Google Form の活用により、パソコンなどを活用した処理能力やプレゼンテーション能力も高まったと考える。



企業支援チームに商品開発の相談



部署内での活動内容とその後の日程の話し合い



学校運営協議会の委員さん、模擬会社 LinkS 協力企業、起業家に相談

～コラム②～

「社会に開かれた教育」で私も成長！

府中市立府中明郷学園
9 学年担任 赤川真美

私は、教師になって 10 年目、府中明郷学園に赴任して 4 年目です。昨年度、8 学年担任として、生徒や地域企業とともに模擬会社経営に取り組みました。模擬会社を引き継いだ時は、「私に会社経営を指導できるのだろうか。」と不安な気持ちでした。しかし、我々教職員の多くが専門外の「経営」「経理」について、企業支援チームの方々が生徒たちに教えたり助言をしたりしてくださったりするなど、まさに「支援」していただいたおかげで、試行錯誤しながらではありましたが、次の学年に引き継ぐことができました。

そして、生徒たちは、地域や企業など多くの社会人の方々と関わったことで、様々な意見・考えに触れたり、職業について知ったりすることができ、自分の将来について考えるようになるなど、大きな成長を感じました。私も、一社会人として多くの方から知識を得て視野を広げ、自分自身も成長することができたと思います。また、生徒たちに「課題解決型」の学習に取り組ませることで、ファシリテートするスキルも身に付いたと思います。地域や企業の方々に、我々教職員も成長させていただいていると日々感じています。